

がさがさ探検隊と綾瀬川の魚を調べよう！

水越 雅子・三井 元子
(NPO法人 エコロジー夢企画)



9:40 保育園前集合→大曾根ビオトープまで歩く
→10:00 開会挨拶→10:10 野鳥観察・植物観察
→魚類採取と観察会→水質調査→12:20 桑袋ビ
オトープへ歩いて移動→12:30 公園内でお弁当→
13:00水生生物採集と観察会→14:30 閉会

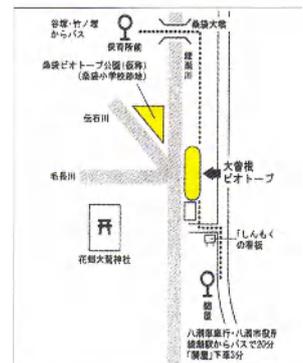
2006年6月24・25日、あだち区民環境フェア
実行委員会は「がさがさ水辺の移動水族館」を
招致し、環境フェアにおいて、足立区周辺で見
られる魚の展示を行なった。エコロジー夢企画
では、さらに「実際に自然地で魚を取ってみよ
う」と呼びかけ、7月9日綾瀬川大曾根の湿地で
ガサガサ探検隊の指導で子どもたちと一緒に
魚を捕獲し、観察会を行なった。また植物・昆
虫・野鳥については、五十嵐吉夫(みずもと自
然観察クラブ)さんの指導で観察会を行なった。
終了後、対岸の足立区桑袋ビオトープ公園
(2005年5月開館)で解説員の指導により水生
生物を観察した。



開会式の間、大曾根の湿地大池ではアジサシが
何度も急降下してボラをつかまえる姿がみられた。

野鳥・植物・昆虫観察

野鳥—コアジサシ・アオサギ・ハクセキレイ・ツバメ・カワウ・ムクドリ・スズメ
蝶—キタテハ・モンシロチョウ・ヤマトシジミ・キマダラセセリ・イチモンジ
セセリ・ベニシジミ・ツバメシジミ・イチモンジセセリ
植物—ガガイモ・オオブタクサ・ブタクサ・コヒルガオ・ネジバナ・シロツメクサ・
ギシギシ・アレチギシギシ・エゾギシギシ・コメツブツメクサ・シロネ・
ゴキツル・スズメウリ・ウラジロチチコグサ・ヤブガラシ・ミコシガヤ・
ネズミムギ・イヌムギ・サデクサ・ヒメジソ・イシミカワ・カナムグラ・
アメリカセンダングサ・メリケンガヤツリ・アカツメクサ・シマスズメノヒエ・
ヨシ・カントウヨメナ・チクゴスズメノヒエ・クサネム





魚観察

魚類—マハゼ・アベハゼ・アシシロハゼ・ウキゴリ・ヌマチチブ・ボラ・ギンブナ・
モツゴ・ブラックバス・ウナギ
水生生物—テナガエビ・アメリカザリガニ・スジエビ・クロベンケイガニ・
オタマジャクシ(ウシガエル・ツチガエル)



大雨になるというような予想だったので、早々に取りやめた参加者も多かったのではないかと思うが、小雨が降っただけで済み、集まった参加者にはダイナミックな自然を満喫していただくことができた。大曾根の湿地では、コアジサシが何度もジャンプしてボラを捕まえ飛んでいく姿が見られた。また、こども達はライフジャケットをつけて、目の前で投網を打って捕獲した魚を自分たちで網から出し、ケースに入れていった。こどもたちの目がだんだん生き生きしてきた。講師の山崎さんと一緒に同定を体験するうち魚種の見分けがつくようになった。八潮市の小学校の先生も4人みえていた。



綾瀬川での魚類の変化

国土交通省江戸川河川事務所では、大曾根の湿地の保全効果を調べるため年に2回魚類調査を行っている。

表 4.1.9 大曾根地区と綾瀬川の魚類相の比較

No	目名	科名	種名	生活型	河川水辺の国勢調査																			
					内匠橋(下流約2km)						大曾根地区調査													
					H6	H10	H15	H6	H10	H15	H11年度	H12/7	H12/10	H13/4	H13/8	H14/4	H14/8	H15/4	H15/8	H16/5	H16/8			
1	コイ目	コイ科	コイ	純淡水	1	1	3	3	13	1	7	2	1	15	3	3	5	1	48					
2			タンゴロウブナ	純淡水					23							1								
3			キンブナ	純淡水	4	2	1	13	107	8	7	2	2	9	48	1	4	15	10	7	9			
4			キンブナ	純淡水				5	17	7						20	4	15	10	7	9			
5			キンギョ	純淡水			1																	
6			タイリクバラタナゴ	純淡水			1	1	7	8	13					15	5	17	1	12	3			
7			オオタナゴ	純淡水							1													
8			ハクレン	純淡水																				
9			ハス	純淡水																				
10			オイカワ	純淡水																				
11			ウグイ	純淡水																				
12			マルタ	純淡水																				
13			モツゴ	純淡水	1	3	1	23	77	37	71	1	15	1,066	1,215	1,333	0	183	49	382	150	44	63	
14			タモロコ	純淡水			1	1											25	1	1		11	
15			スゴモロコ	純淡水																				
16		ドジョウ科	ドジョウ	純淡水	4	1		3	5	1	1													
17			カドシヨウ	純淡水	2	2	1	1	1	1	2													
18		ナマズ科	ナマズ	純淡水																				
19	カダヤシ目	カダヤシ科	カダヤシ	純淡水	2	2	16	1	73	6	9	2	12	2	3	20	0	1						14
20	ダツ目	メダカ科	メダカ	純淡水			1																	
21	スズキ目	サンフィッシュ科	ブルーギル	純淡水																				
22			オオクチバス	純淡水																				
23			ボラ	汽水			1							1										
24		ボラ科	ボラ	汽水																				
25		ハゼ科	スマシキゴリ	汽水																				
26			ウキゴリ	汽水			59																	
27			マハゼ	汽水			82																	
28			アベハゼ	汽水																				
29			トウヨシノボリ	汽水																				
30			シモフリシマハゼ	汽水																				
31			ヌマチチブ	汽水																				
32	4目	タイワンドジョウ科	カムルチー	純淡水	2種	5種	7種	6種	8種	9種	9種	8種	10種	5種	6種	4種	7種	11種	16種	9種	11種	10種	14種	
			計		7種	7種	13種	10種	10種	13種	13種	14種	16種	8種	6種	4種	7種	11種	18種	13種	11種	10種	16種	

大曾根地区と綾瀬川の両方で確認された種(13種)
 綾瀬川と工事前後の大曾根地区に確認された種
 綾瀬川と工事後の大曾根地区に確認された種
 大曾根地区でのみ確認された種(10種)
 工事の大曾根地区に一時的に確認された種
 工事後の大曾根地区に確認された種
 平成15年度初確認種
 綾瀬川でのみ確認された種(9種)
 綾瀬川のみ確認された種

計

この結果でみると

1. 工事前のH12年に48個体いたギンブナ、1215個体いたモツゴが激減し、マハゼ、ブルーギルが増加していることが分かる。
2. 工事後魚の種類は、8種から23種に増加した。
3. 重要な種(アベハゼ、ヌマチチブ等)が工事後生息するようになった。
4. 移入種が工事後増加した(タイリクバラタナゴ、ブルーギル)
5. 工事後トヨシノボリが消失している。

水生生物観察：足立区桑袋ビオトープ公園

午後からは、八潮市対岸の足立区花畑地区にある足立区桑袋ビオトープ公園で、水生生物調査を行った。園内には、毛長川の水を取り入れて75%汚れを除去する計画の礫間浄化施設がある。小学校の校庭を壊してビオトープ公園として整備したところだが、様々な生物がだんだんに棲みつくようになってきている。解説員から、ビオトープ公園についての話を聞き、その後水路へ行って生物を採取、タイコウチやギンヤンマのヤゴなどを見つけた。その後、顕微鏡で微生物の動きを観察した。



タイコウチ

まとめ

八潮市大曾根の湿地と足立区桑袋ビオトープ公園は、平成11年の地域戦略プランの予算によってその整備事業が始まった、いわばツイン事業である。今回の催しは県境を越えて呼びかけていたのだが、八潮市の湿地には足立区民はほとんどこなかった。また足立区会場には午前中に参加した八潮市民は、1組3名が参加しただけであった。流域の方たちが顔を合わせ共に川作りに参加していくよう、これからも県境を越えたイベントを開催していきたいと感じた。なぜなら、川は県境を越えて流れているのだから。